



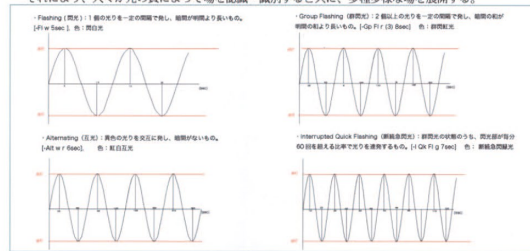
■ 灯台の衰退

かつて灯台は航路標識のひとつとして、海と陸地を繋ぐシンボルの役割を担っていた。同時に暗やみの中で放つ光が暖かく包み込み、あるひとつの伝統的風景を形成していた。しかしGPSなどの電波標識などの発達により灯台はその役割を終え、多くがその姿を消していった。海と陸地を繋いでいたシンボルを失った今、新しい海のランドマークが必要ではないだろうか。

本計画は、船着き場をガラスブロックによって構成し、海に浮かべ、夜になると光を放つ。透過性のあるガラスブロックにより、水面の揺らぎが光に影響を与え、不知火を彷彿させるかのような独特の光が生じる。これらのガラスブロックが放つ光により、かつての記憶を継承すると同時に、海と陸をつなぐ未来の新たな風景を創出する。

■ 灯質の応用

近隣にある灯台は、それぞれ光り方（灯質）が全て異なり、識別できるようになっている。光の色、点滅の間隔などにより差異化されており、この性質をガラスブロックの光にも継承させる。それにより、人々が光の質によって場を認識・識別すると共に、多種多様な場を展開する。



■ 断面図

